

黒淵ダム建設前および建設後の 丹生川の水生昆虫群集¹⁾

(挿図1 図版Ⅳ)

御 勢 久 右 衛 門

Aquatic insect communities of the Niu River before and after
the construction of a dam

By Kyuemon GOSE

は じ め に

河川におけるダム湖の形成は河川の無機的環境条件を変化させる。これにともなつて、湛水以前の水生生物群集も変化せざるをえないわけである。私はダム工事が着工される以前の1953年4月3日とダム完成後の1960年4月2日の2回、奈良県の丹生川にできた黒淵ダム湖とこれにつらなる川について調査を行つたのでその結果を報告しておきたい。本文に入るに先だちご指導いただいた奈良女子大学の津田松苗教授に厚くお礼を申しあげる。

調 査 場 所 と 方 法

1. 環 境 要 因

1953年4月3日(黒淵ダム湖築造以前)の各調査地点の気温、水温、pHは表1のごとくである。1960年4月2日(黒淵ダム湖完成後)の各調査地点のうち、黒淵ダム湖の水温が城戸に比し3.5°C低いのは、この間に十津川水系の猿谷ダム湖から導水し、発電した低

表 1. 調査地点の気温、水温、pH

採 集 地 点	1953年4月3日				1960年4月2日				
	城 戸	黒 淵	和 田	生 子	城 戸	黒 淵 ダム湖	黒 淵	和 田	生 子
採集時刻(時分)	14:20	16:35	10:20	12:55	9:20	10:40	13:10	14.50	16:30
気 温 °C	25.0	19.4	15.8	19.2	18.1	17.3	24.3	19.1	15.7
水 温 °C	16.2	15.7	13.2	14.1	15.8	12.2	19.2	14.4	15.4
pH	7.2	7.5	8.0	8.2	7.2	7.2	8.0	8.2	8.0
天 候	f	f	f	f	f	f	f	f	f

1) 奈良女子大学津田松苗教授に対する文部省の科学研究費(総合研究)「ダム湖およびそれに連なる川の陸水生
物学的研究」の一部を使用した。

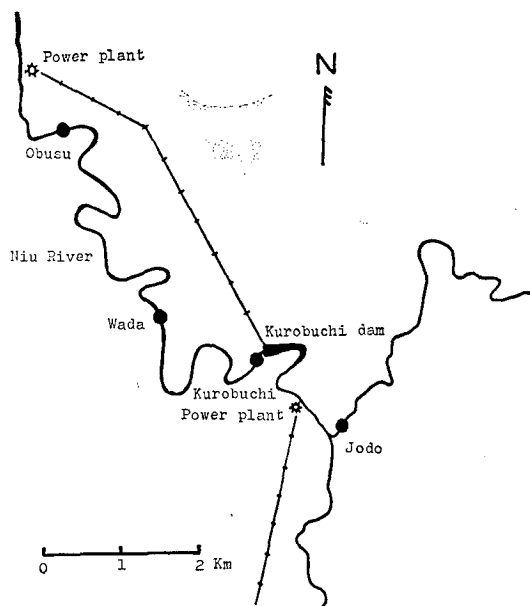


図 1. 丹生川略図 ●印は調査地点

温水が黒瀾ダム湖に流入するからである。黒瀾の水温の高いのは川水かほとんど止水でたまり水の状態である理由による。

2. 調査結果 (表 2, 3, 4 参照, 本文末尾)

(1) 黒瀾ダム築造前の種数, 個体数, および現存量は表 2 に示した。城戸の種数は 23 で, 現存量は 1 コドラート (0.25m²) あたり 6.6g と 7.2g を示し, 河川の水生昆虫の現存量としては多い方である。 *Hydropsyche ulmeri* (ウルマアシマトビケラ) が優占種 (重さにおいて) である。黒瀾の種数は 15 で, 現存量は 5.5g と 6.8g で多い。 *Parastenopsyche sauteri* ヒゲナガカワトビケラ, *Hydropsyche ulmeri* が優占種 (重さにおいて) である。和田の種数は 20 で, 現存量は 7.7g と 5.3g で多い。 *Hydropsyche ulmeri* が優占種であつた。全般的にみて種数, 個体数ともに多く, 現存量も多い。

(2) 黒瀾ダム完成後の種数, 個体数および現存量は表 3 に示した。城戸では 12 種が得られ, 現存量は 2.4g と 2.5g で, 河川の水生昆虫の現存量としては普通である。 *Hydropsyche ulmeri* が優占種である。黒瀾ダム湖 (表 6, 7) の種数は 5 で, 現存量は約 0.5g を示す。同ダム湖はながれダム湖であるため, 湖部によってその底質が異なる。すなわち, 上流湖首部は石礫, 湖中部は泥かぶりの礫砂, 湖首部は泥である。底生動物の現存量においては,

湖首部から湖尾部へと *Ecdyonurus yoshidae* (シロタニガワカゲロウ)→*Potamanthus kamonis* (キイロカワカゲロウ)→*Limnodrilus* sp. (イトミミズ属)が優占種であつた。一般にながれダム湖において、底質が石礫→泥かぶりの礫砂→泥の場合にはそこに生息する水生動物群集の優占種は *Ecdyonuridae* (*Epeorus*→*Ecdyonurus*)→*Potamanthidae*—*Leptophlebiidae* (*Potamanthus kamonis*—*Choroterpes trifurcata*)→*Tubificidae* (*Limnodrilus*) となる。湖の底の昆虫群集の変動について行なつた西村 (1964) の結果も、ながれダム湖の吉野川ダム湖で伊藤ほか (1964) が行なつた調査の結果もこの傾向を示している。黒瀾¹⁾の種数は2で、現存量は 0.04g と 0.03g できわめて少ない。優占種は *Ecdyonurus yoshidae* である。和田²⁾では種数が10で、現存量は 0.3g と 0.4g で少ない。*Choroterpes trifurcata* (カワカゲロウ) が優占種である。生子³⁾では種数が14で、現存量は 1.2g と 2.4g で普通である。*Hydropsyche ulmeri*—*Parastenopsyche sauteri* が優占種であつた。

ダム築造前と完成後とにおいて、各 station の水生昆虫群集についてくらべてみると、種数、個体数ならびに現存量がいつでも前者の方が多い。もちろん単位面積あたりのことである。単位面積あたりもとの流水域の方がダム湖成立後よりも底生動物の生産はるかに多い。

3. 生活形別の現存量

表4 (黒瀾ダム湖築造前) によると、いずれの地点も造網型の現存量が多く、64~94% を占めており、瀬における水生昆虫群集としては安定した極相にあると考えられる。次に表5 (黒瀾ダム築造後) によれば、城戸の造網型は 86~89% を占め、ダム築造前に比し変化はないが、黒瀾ダム湖では現存量も少なく湖首部の石礫底では匍匐型が97.3%、湖中部の泥かぶりの礫砂底では掘潜型が55.4%、湖尾部の泥底では掘潜型が100% を占めている。和田では游泳-匍匐型の現存量が約83% を占めるが生子では造網型の現存量が比較的多く、造網型が約51% を占めている。

黒瀾ダム湖築造以前の丹生川を流速-底質のタイプ (御勢, 1964) によつて分けると、各地点とも流水-石礫底型を呈していたが、ダム完成後の城戸では変化なく流水-石礫底型。黒瀾ダム湖は、流水-石礫砂泥底型と止水-泥底型。黒瀾は止水-石礫底型。和田は流水・止水-石礫底型。生子は流水-石礫底型となる。

1. 黒瀾ダム堰堤より約 0.5km 下流で、水量が少なくほとんど止水状態である。底質は石礫底。
2. 水量は少いが平瀬状態である。
3. 水量はダム築造前より少ないが、平瀬-早瀬状態である。

表 6. 黒瀾ダム湖の底生動物 (mg/15cm×15cm×4 回) 1960 年 4 月 2 日

個体数・重さ (mg)	個体数	重さ	個体数	重さ	個体数	重さ
採 集 地 点	湖 首 部		湖 中 部		湖 尾 部	
底 質	石 礫		泥かぶりの礫砂		泥	
種 名						
蜉蝣目 Ephemeroptera						
<i>Epeorus latifolium</i>	3	43				
<i>Ecdyonurus yoshidae</i>	19	274	1	14		
<i>Potamanthus kamonis</i>	2	10	7	34		
<i>Choroterpes trifurcata</i>			3	4		
イトミミズ科 Tubificidae						
<i>Limnodrilus</i> sp.					13	143
計	24	327	11	52	13	143

表 7. 黒瀾ダム湖の底生動物の生活形別の現存量 (mg/0.25m²) 1960 年 4 月 2 日

採集地点	湖 首 部	湖 中 部	湖 尾 部
重さ (mg)	重さ %	重さ %	重さ %
生 活 形			
匍 匐 型	951 97.3	42 26.9	— —
游 泳 型	— —	12 7.7	— —
掘 潜 型	30 2.7	102 65.4	429 100

摘 要

1. 吉野川水系 (奈良県) の丹生川において、黒瀾ダム湖築造前と完成後の水生昆虫群集について 1954 年 4 月 3 日と 1960 年 4 月 2 日に調査を行なった。

2. 黒瀾ダム湖築造前の丹生川の水生昆虫群集は、種数、個体数、現存量ともに多く (*Hydropsyche ulmeri*—*Parastenopsyche sauteri* が優占種)、造網型係数が 64~94% に達し、瀬における水生昆虫群集の極相にあると考えられる。ダム完成後 (ながれダム湖) の水生昆虫群集は、ダム湖の影響のない城戸では、種数、個体数、現存量とも変りはない。ダム湖と化した黒瀾では種数、個体数、現存量ともに少なく、そのうちでも底質が湖首部の石礫、湖中部の泥かぶりの礫砂、湖尾部の泥となるにつれて、底生動物の優占種は *Ecdyonurus yoshidae*→*Potamanthus kamonis*→*Limnodrilus* sp. の移りゆきを示す。またその優占生活形は匍匐型→掘潜型となる。黒瀾堰堤のすぐ下流では、種数、個体数、現存量とも少なく、優占生活形は匍匐型となる。和田の優占生活形は遊泳-匍匐型。さらに下流の生子は種数、個体数、現存量が増加し、優占生活形は造網型となる。

文 献

- 御久右衛門 (1964) : 湯原・旭川両ダム湖およびそれにつらなる川の水生昆虫群集について, 淡水生物, no. 9, 37-38.
- 伊藤猛夫・二階堂要・桑田一男 (1964) : 高知県・広島県のダム湖およびそれに連る河川の陸水生物学的研究. 淡水生物, no. 9, 2-3.
- 西村 登・谷口 正 (1964) : 湖の底の昆虫群集の変動, 日生態会誌, 14, 66-69.

S U M M A R Y

The aquatic insect communities in the Niu River, Nara Prefecture, were investigated concerning the conditions before and after a dam was constructed at Kurobuchi in the course of that river. The results obtained are as follows:

1. In May 1954, before the construction of the Kurobuchi dam, there were found rich insect communities in the river. For example, the standing crops of all the stations (Jodo, Kurobuchi, Wada, Obusu) were estimated 4.5-7.7g in wet samples per 0.25m². The net-spinning caddis worms were dominant, and the communities were in climax in succession of the aquatic insect communities of rapids.

2. In May 1960, after the construction of the dam, the lake formed behind the dam has become to have bottom deposits, such as: 1) gravel and sand in the upper part, 2) sand with mud in the middle part, and 3) mud in the lower part. The dominant species found in this investigation are as follows:

1. *Ecdyonurus yoshidae* 2. *Potamanthus kamoni* 3. *Limnodrilus* sp.

The dominant life forms are: a creeping form (1 & 2) and a burrowing form (3).

3. The lower reaches of the river from the Kurobuchi dam has a very poor fauna, consisting of creeping forms as dominant life forms.

4. At Wada, on the 2.5 km lower from the dam, the dominant life forms are swimming and creeping ones.

5. A rich insect fauna was found at Obusu, 4 km lower from Wada, where the dominant life forms were net-spinners.

(著者: 御勢久右衛門, 奈良県五条市五条, 五条高等学校; Kyuemon Gose, Gojo High School, Gojo, Nara-ken)

表 2. 個体数および現存量 (mg/50cm×50cm) 1953 年 4 月 3 日

採 集 地 点 コ ド ラ ー ト 個 体 数 ・ 重 さ (mg)	城 戸			
	No. 1		No. 2	
種 名	個 体 数	重 さ	個 体 数	重 さ
毛翅目 Trichoptera				
<i>Rhyacophila nigrocephala</i>	2	17		
<i>Rhyacophila yamanakaensis</i>				
<i>Rhyacophila</i> sp. (RF)	1	20	2	14
<i>Rhyacophila clemens</i>				
<i>Rhyacophila</i> sp. (RH)	1	4		
<i>Rhyacophila</i> sp. (RI)	1	20		
<i>Rhyacophila brevicephala</i>	1	20		
<i>Parastenopsyche sauteri</i>	14	1,362	12	1,049
<i>Hydropsyche ulmeri</i>	285	3,780	183	5,076
<i>Apatania</i> sp.	1	7		
<i>Leptocerus</i> sp.			3	5
<i>Mystrophora inops</i>	35	369	16	75
蜉蝣目 Ephemeroptera				
<i>Ephemerella nigra</i>	10	57		
<i>Ephemerella basalis</i>	1	15		
<i>Ephemerella trispina</i>			1	10
<i>Ephemerella</i> sp.	1	15	3	20
<i>Baetis</i> sp.			5	15
<i>Baetis</i> sp.	17	40		
<i>Epeorus napaesus</i>	1	9		
<i>Epeorus uenoi</i>	1	2		
<i>Epeorus hiemalis</i>				
楮翅目 Plecoptera				
<i>Acroneuria stigmatica</i>	6	103	7	511
<i>Kiotina</i> sp.				
脈翅目 Neuroptera				
<i>Protohermes grandis</i>	1	761		
双翅目 Diptera				
<i>Antocha</i> sp.				
<i>Tanypus</i> sp.				
<i>Eriocera</i> sp.				
<i>Philorus vividis</i>	6	40	9	378
<i>Simurium</i> sp.			1	2
鞘翅目 Coleoptera				
<i>Elmis</i> sp.	11	6	9	10
合 計	396	6,647	256	7,184

黒		瀬		和		田		生		子	
No. 1		No. 2		No. 1		No. 2		No. 1		No. 2	
個体数	重 さ	個体数	重 さ	個体数	重 さ	個体数	重 さ	個体数	重 さ	個体数	重 さ
				4	24			1	15		
				1	11			1	10	1	20
								1	4		
3	27			7	92	8	86				
14	1,960	48	4,574	5	287	4	296	19	2,462	47	3,662
136	2,431	64	747	197	6,513	197	4,171	68	948	42	565
						8	21			1	7
22	419	10	145	37	256	10	43	2	21		
						1	100	2	140		
		2	36	1	22	4	45			2	26
1	10	6	175	8	47	7	109	3	21	2	12
3	28							1	12	2	24
5	8			2	12						
8	211			8	105	9	85	8	92	5	147
		1	14			1	48				
		1	47								
6	233	9	1,127	5	277	3	14	3	183		
						1	11				
								1	1,372		
						1	8				
				3	2	4	6				
		1	17	1	70	5	200	1	46	1	46
2	158	1	40	1	2			1	40		
9	5			12	16	14	15				
209	5,490	143	6,771	299	7,730	280	5,266	113	5,366	103	4,502

表 3. 個体数および現存量 (mg/50cm×50cm) 1960 年 4 月 2 日

採 集 地 点 コ ド ラ ー ト	城 戸			
	No. 1		No. 2	
個体数・重さ(mg)	個体数	重 さ	個体数	重 さ
種 名				
毛翅目 Trichoptera				
<i>Rhyacophila transquilla</i>				
<i>Rhyacophila nigrocephala</i>	1	7	4	29
<i>Rhyacophila clemens</i>			1	7
<i>Parastenopsyche sauteri</i>	6	863	4	885
<i>Hydropsyche ulmeri</i>	216	1, 256	382	1, 326
<i>Mystrophora inops</i>				
蜉蝣目 Ephemeroptera				
<i>Ephemerella trispina</i>				
<i>Ephemerella</i> sp.	15	33	5	19
<i>Ephemerella rufa</i>				
<i>Baëtis</i> sp.				
<i>Baëtiella</i> sp.	8	3	1	2
<i>Choroterpes trifurcata</i>			1	2
<i>Isonychia japonica</i>				
<i>Epeorus uenoi</i>	3	42		
<i>Epeorus latifolium</i>	2	28	10	97
<i>Ecdyonurus yoshidae</i>				
<i>Rhithrogena japonica</i>	6	26	10	103
植翅目 Plecoptera				
<i>Acronuria stigmatica</i>	4	151		
<i>Kiotina</i> sp.				
脈翅目 Neuroptera				
<i>Protohermes grandis</i>				
双翅目 Diptera				
<i>Antocha</i> sp.				
<i>Tanypus</i> sp.				
<i>Eriocera</i> sp.				
鞘翅目 Coleoptera				
<i>Elmis</i> sp.	2	9	2	18
合 計	265	2, 444	20	2, 488

黒 瀬				和 田				生 子			
No. 1		No. 2		No. 1		No. 2		No. 1		No. 2	
個体数	重 さ	個体数	重 さ	個体数	重 さ	個体数	重 さ	個体数	重 さ	個体数	重 さ
								1	10	1	35
								3	303	6	555
				10	49	21	67	20	296	51	674
								12	106	25	500
								2	55		
				4	8	7	16			1	4
				2	4	2	4				
								1	12	4	17
								1	12		
				108	140	160	112	1	3	1	5
						1	40				
								8	124	8	216
4	25	8	31	4	16	2	11				
								4	250	2	315
1	4	1	4								
				1	8						
				5	9	11	19				
				118	38	256	93	3	2		
										2	72
				5	14	6	12			3	4
5	29	9	35	258	288	446	374	56	1,173	104	2,397

表 4. 生活形別の現存量 (mg/50cm×50cm) 1954 年 4 月 3 日

採集場所 コードラート	城戸				黒瀬				和田				生・子			
	No.1		No.2		No.1		No.2		No.1		No.2		No.1		No.2	
重さ(mg)	重さ	%	重さ	%	重さ	%	重さ	%	重さ	%	重さ	%	重さ	%	重さ	%
生活形態	5,141	77.4	6,125	86.8	4,391	80.1	5,321	78.6	6,800	88.1	4,467	84.8	3,410	63.5	4,227	94.1
匍匐型	1,077	16.2	501	7.1	489	8.9	1,416	20.6	632	8.2	720	13.6	1,853	34.1	231	5.1
携巣型	367	5.6	80	0.8	419	7.6	145	2.7	256	3.3	64	1.2	21	0.2	7	0.2
游泳型	12	0.2	0	0	36	0.6	0	0	40	0.3	15	0.4	104	1.9	24	0.6
固着型	40	0.6	378	5.3	158	2.8	40	0.1	2	0.1	0	0	40	0.5	0	0

表5 生活形別の現存量 (mg/50cm×50cm) 1960年4月2日

[illegible]



1. 黒浏ダム湖と堰堤（電源開発株式会社撮影ならびに提供）



2. 黒浏ダム湖首部とその上流（電源開発株式会社撮影ならびに提供）